

ピロリ菌感染の有無と胃ガンの危険度(A B C 検診)を調べましょう

新倉敷ピーチクリニック



ピロリ菌抗体検査

胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないか調べる検査です。内視鏡検査で胃炎と診断されている方は保険診療。その他の方は3100円

ペプシノゲン検査

「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで胃粘膜の老化(萎縮)を客観的に調べる検査です。保険適応外 3100円



ピロリ菌除菌

ピロリ菌陽性なら除菌。内視鏡検査で胃炎と診断されている方は保険診療。その他の方は7000~6500円

同時検査割引料金: 4700円

胃ガンの危険度 A B C (D) 分類

胃ガンの危険度	A群	B群	C群	D群
ピロリ菌	-	+	+	-
ペプシノゲン値	-	-	+	+
胃がんの危険度	低			高
胃の健康度	健康な胃粘膜。胃粘膜萎縮の可能性は非常に低い	胃潰瘍に注意。少数ながら胃がんの可能性も。胃粘膜の萎縮がない、または軽い。	慢性萎縮性胃炎。胃粘膜萎縮が進んでいる。	胃がんの可能性。胃粘膜萎縮が進み過ぎ、ピロリ菌が胃に進めずに退却。
その後の管理・対処法	管理対象から除外。	必ずピロリ菌除菌。除菌前後に画像検査。	ピロリ菌除菌の撤去。定期的内視鏡検査。	毎年の内視鏡検査。
年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	500人に1人	80人に1人
判定後2次精密画像検査(間隔)	不要※	必要(3年以内)	必要(2年以内)	必要(毎年)
ピロリ菌除菌	不要	必要	必要	必要

※自覚症状のある人、また過去5年以内に精密画像検査を受けていない人は、この検査が必要です。

ピロリ菌除菌治療料 (自由診療の場合)

ピロリ菌除菌治療は、胃十二指腸潰瘍、慢性胃炎などが、内視鏡検査で診断された場合に限り、保険適応があり、ピロリ菌陽性のみでは保険適応がありません。

しかし、胃がんとピロリ菌の関係を心配され、内視鏡検査をせずに、診断、除菌をご希望の方は、自由診療での診断治療をお勧めします。

初回 A	胃がん危険度検査: ピロリ菌抗体検査 + ペプシノーゲン検査 (血液検査)	割引後4700円
初回 A'	胃がん危険度検査: ピロリ菌便検査 + ペプシノーゲン検査	割引後4700円
初回 B	単独での ピロリ菌便検査、ピロリ菌抗体検査、ペプシノーゲン検査	各3100円
初回除菌	抗生剤2種類 + 制酸剤PPI	7000円
二次除菌	抗生剤2種類 + 制酸剤PPI	6500円
効果判定	ピロリ菌検便検査	各3100円

※自由診療料金は、後発品を中心に院内処方とすることで、価格を最小限度に抑えています。(ピロリ菌に有効な後発品の中には、ピロリ菌除菌時の保険適応がない場合が多々ありますが、自由診療では使用可能で、しかも安価です。)

※初回検査にペプシノーゲン検査 (血液検査) を加えることで、胃がんリスク診断が出来るため、当院では初回AないしA'検査をお勧めしています。

※胃酸抑制剤を飲まれている方は、ピロリ菌が静菌状態(活動が抑制された状態)のため、尿素呼気試験では偽陰性になる場合があります。よって、当院では効果判定を便検査で判定します。

※保険診療では、内視鏡検査が必ず必要で、検査・投薬のトータルが、3割負担の方で最低で 約1万円です。

※除菌治療は初回で100%成功することはありません。平均で70-80%です。二次除菌は抗生剤を変更して行います。費用は初期治療より安く設定しています。

※除菌により、逆流性食道炎が発生、悪化するとの報告もありますが、ピロリ菌陽性者のみの研究では、治療前後で逆流性食道炎にかかっている比率に差はないと報告されています。

※抗生剤(ペニシリン系、マクロライド系)のアレルギーをお持ちの方は、治療が受けられない場合があります。

※副作用として、吐き気、腹部違和感などを訴えられる方がいます。